



# 栗原小だより

〒123-0843

足立区立西新井栄町 2-10-18

<https://www.adachi.ed.jp/adkuha/>

令和 6 年度

1 月号

足立区立栗原小学校

校長 田中 泰徳

TEL 3887-6391

## 時代の流れ・・・

校長 田中 泰徳

令和 7 年（2025 年）新年明けましておめでとうございます。昨年中は、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございました。今年も変わらぬご支援・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

さて、お正月の風物詩の一つとして上げられるものに年賀状がありますが、皆さんのご家庭ではどうされたでしょうか？ニュースなどによると郵便料金の値上げや SNS の普及等により、「年賀状じまい」が加速し、今年の年賀状の総数は昨年の約 3 分の 2 に減ったそうです。我が家が今年いただいた年賀状のなかにも、「年賀状じまい」のお知らせが何枚もあり、来年はさらに増えるかな、我が家はどうか・・・といろいろ考える年初めでした。

私が小学生の時（昭和 40 年代）の年賀状といえば、文字は手書き、イラストも手書きか、サツマイモや消しゴムを彫って作った干支のハンコ、といったものでした。手がかかるのでおそらく 10 枚も送らなかつたと思います。中学生になると「プリントゴッコ」という画期的な家庭用プリント機が発売され、カラフルな年賀状を何枚も作れるようになりました。新しい色のインクを毎年買い足し、どの部分を何色にするか考えながら作りました。送る年賀状の枚数が一気に増えた覚えがあります。教員になりパソコンとプリンターが普及すると、年賀状ソフトを使って通信面のデザインと宛名面の印刷・管理もでき、年賀状作りがとても楽になりました。卒業生なども多く、毎年 200 枚くらいは送ったと思います。

いただく年賀状の 3 分の 2 は、年に一度のご挨拶であり、近況やさまざまな写真から様子がわかるのはとても楽しみです。年賀状だけのやり取りで 40 年以上会っていない方もいます。SNS の年賀状でも用は足りるでしょうが、手書きで書かれた一筆には言葉の内容以上にその方の様子を表しているように感じてしまいます。そうはいても、「年賀状じまい」の流れはますます進んでいくことでしょうし、コストや時間を考えるとパソコンやスマホ上で手書きで書いたメッセージを SNS で送る・・・そんな方法も試してみようか？と考える今日この頃です。

学校教育にはタブレットが導入され、書く作業がかつてより減ってきています。AI ドリルは手書き入力ですが、プリントで宿題を出してほしいという声もうかがいます。デジタルとアナログの共存、いいところ取りのハイブリッド化がこれからの課題だと感じます。この 1 月から、学習を進める際に協働で学ぶツールの一つとして、手作りホワイトボードを各学級に配布する予定です。タブレットには FigJam（フィグジャム）というみんなで共有できるホワイトボードアプリがありますが、画面を通してだけでなく、一枚のホワイトボードを囲んでいろいろな意見を書いて出し合うアナログ作業も子供たちの学びに厚みを持たせられるだろうという考えからの取り組みです。

子どもたちのよりよい成長のために、時代の流れを感じ取りながら今年も取り組んでまいります。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

## 展覧会

図工専科

12月13日（金）～14日（土）「アートで見つけよう！広げよう！みんなのすてき」をテーマに、児童が年間を通して制作した図画工作科や家庭科の作品を、体育館に展示しました。

児童は、全学年の作品が体育館に大集合した様子に大興奮！力作ぞろいの作品を、皆で楽しみながら鑑賞する姿が見られました。今回の展覧会では、14日（土）午前中に6年生が栗原学芸員として、体育館に展示された作品を来場された皆様に紹介する取り組みを実施しました。最初は緊張してなかなか話すことができなかつた児童も、時が経つにつれ自信をもって取り組んでいる様子が見られました。